

〔 果 樹 〕

1. 常緑果樹

1) 温州ミカン

九州の温州ミカンは沖縄を除き裏年にあたり、九州各県では生産量は平年より少なかった。佐賀では前年比で極早生 76 %、早生 55 %、普通 65 %であり、長崎では極早生 90 %、早生 84 %、普通 71 %であった。

発芽期はやや遅い県が多かった。開花期は長崎・鹿児島で平年なみに近かったほかは、やや遅かった。沖縄では発芽期、開花期とも 10 日遅かった。着花量は少ない～やや少ない県が多かった。成熟期は、福岡・長崎・熊本・鹿児島で平年なみ、佐賀・宮崎でやや早かった。果実の大きさは、福岡・佐賀・熊本・宮崎・鹿児島で平年なみ～やや大きく、長崎ではやや小さく、沖縄では平年より劣った。

極早生ウンシュウの糖度は、福岡・佐賀・宮崎・鹿児島で平年なみであり、長崎でやや高く、熊本でやや低かった。早生ウンシュウおよび普通ウンシュウの糖度は、福岡で平年なみ、佐賀・熊本・鹿児島でやや低かった。

極早生ウンシュウの減酸は、福岡・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄でやや早く、佐賀・長崎で平年なみであった。早生ウンシュウは、福岡・長崎・熊本・沖縄でやや早く、佐賀・鹿児島で平年なみであった。普通ウンシュウは、長崎・熊本・鹿児島でやや早く、佐賀で平年なみ、福岡では遅かった。

2) 不知火

熊本では、発芽期が 7 日遅く、開花期も 5 日遅かった。果実の大きさは平年より大きく、成熟期は平年なみ、糖度は平年より低かった。減酸は遅く、生産量は平年なみであった。

鹿児島では、発芽期が 7 日遅かったが、開花期は平年なみであった。果実の大きさは平年よりやや大きく、成熟期は平年なみ、糖度は平年なみで、減酸はやや遅く、生産量は平年なみであった。

3) ポンカン

鹿児島では、発芽期は 2 日程度早く、着花量は平年なみ、開花期も平年なみであった。果実の大きさは平年よりやや大きく、成熟期・糖度は平年なみ、減酸は平年よりやや早かった。

4) ビワ

長崎の「茂木」は、着花量はやや多く、開花期は 4 日遅かった。果実肥大はやや良好で、成熟期は 3 日遅かった。糖度・減酸・食味は平年なみで、生産量は前年比 177 %であった。

鹿児島のビワは、着花量が多く、開花期は平年より 12 日遅かった。果実肥大は平年より劣り、成熟期は 5 日遅かった。糖度はやや高く、減酸は平年なみであった。

2. 落葉果樹

1) ナシ

着花量は、福岡・佐賀・宮崎・鹿児島で平年なみ、長崎で多く、熊本で少なかった。開花期は一般に遅く、県により 1～7 日平年より遅かった。果実の大きさは、福岡・宮崎で平年より大きく、熊本で平年なみ、佐賀・長崎・鹿児島で平年なみ～やや劣った。成熟期は福岡・佐賀・熊本・鹿児島で平年より遅く、長崎・宮崎で平年なみであった。糖度は福岡・長崎で平年より優れ、佐賀・熊本・宮崎で平年なみ、鹿児島でやや低かった。生産量は福岡で平年なみ、佐賀で前年比 119 %、長崎で 154 %、熊本で 105 %であった。福岡・佐賀・長崎で黒星病の発生が見られた。

2) カキ

着花量は、福岡・佐賀で平年なみ、熊本でやや多かった。開花期は福岡・佐賀で平年なみ、熊本でやや遅かった。果実肥大は、福岡で平年なみ、佐賀で平年なみ～やや劣り、熊本で平年なみ～やや優れた。成熟期は福岡・熊本で平年なみ、佐賀でやや遅かった。糖度は福岡・佐賀・熊本とも平年なみであった。生産量は福岡で平年なみ、佐賀で前年比 85 %、熊本で前年比 105 %であった。

3) ブドウ

開花期は佐賀・長崎・宮崎でやや遅く、福岡・熊本・鹿児島で平年なみであった。果粒肥大は、福岡でやや大きく、佐賀・熊本・宮崎・鹿児島で平年なみであった。糖度は福岡で1度高く、佐賀・長崎・熊本・宮崎で平年なみ、鹿児島でやや低かった。生産量は福岡でやや多く、佐賀で前年比 110 %、熊本で前年比 103 %、宮崎で平年なみであった。

4) モモ

佐賀では、着花量は平年なみ、開花期は4日遅く、果実肥大と成熟期は平年なみ、糖度は1～2度低かった。生産量は前年比 114 %であった。

熊本では、開花期は平年より5日遅く、果実肥大は平年より良好で、成熟期は5日遅く、糖度は平年なみであった。生産量は前年比 131 %であった。

5) クリ

熊本では、発芽期は2日、開花期は4日遅かった。着花量は多く、果実肥大は平年より優れた。成熟期は9日遅かった。生産量は前年比 102 %であった。

宮崎では、発芽期・開花期ともに平年より遅く、着花量は平年より多かった。果実肥大は平年より優れ、成熟期は平年なみであった。生産量は平年より多かった。

3. 熱帯果樹

1) パインアップル

沖縄におけるパインアップルは、発芽期・開花期は平年なみであった。着花量は多く、果実肥大は平年なみで生産量は前年比 106 %であった。成熟期はやや早く、糖度は高かった。

2) マンゴー

沖縄におけるマンゴーは、発芽期・開花期ともに平年より遅く、着花量は多かった。果実肥大は平年なみで、成熟期は遅く、糖度は平年なみ、減酸も平年なみであった。生産量は平年比 111 %であった。

(果樹研究所カンキツ研究口之津拠点 山田昌彦)